

「学び合い 高め合い 認め合い 夢と希望を育む小鹿野小学校」

学 校 だ よ り

学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 第4号 平成29年7月3日発行

校長 矢 鳥 泰

1学期最後の7月を迎えました。遠足、修学旅行、社会科見学、林間学校、授業参観等、保護者の皆様にはお忙しい中、学校の諸行事へのご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございました。今月の学校での学習・生活のまとめを終えると、児童は夏休みに入ります。夏休み中の生活の仕方も大切ですが、夏休みに入る前の生活の仕方、体調の管理も含めてどのような形で夏休みに入るかもとても大切です。重ねて、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

～同年代のアスリートの子どもの持つ母親からの学び～

6月初旬は、日本の男女の卓球選手の活躍が連日テレビで放映されていました。その活躍の中で私が特に注目したのが男子の張本選手13歳と平野選手17歳でした。順位という結果もすばらしかったのですが、世界のトップの選手たちに臆することなく堂々と渡り合い、中学生、高校生とは見えない試合ばかりでした。大会後のテレビ番組で二人の選手の子育てについてお母さんがインタビューに答えているのを見ました。テレビで、お二人のお母さんの話に共通することがありました。

「卓球はすごいね。」と言われるのではなく、「卓球もすごいね。」と言われるような選手になってほしいということでした。

よく、世の中では一芸に秀でるといふ考え方があります。1つのことで世の中ですばらしい力を発揮していくことも普通なかなかできることではありません。

しかし、中国生まれの張本選手のお母さんは生活の中心に勉強をおいて、最後に卓球を入れるという生活パターンで今まで育ててきたということでした。そこには「正しい人になってほしい。」、そのためには「正しい判断ができる人になってほしい。」という母親としての思いがあったそうです。勉強をおろそかにしない、しかも大切な卓球も集中して行わせたいと考えているのだそうです。

一方の平野選手のお母さんは、平野選手が3年生の時から、卓球の試合に係る準備や試合のための移動の電車のこと等、全て自分で行わせ自立心を育てることを心がけてきたそうです。

この話を通して試合を見ると「卓球もすごいね。」と言われる選手にすでに二人ともなっているように思えます。

最近、別の世界でも注目の中学生がいますね。将棋の藤井4段です。6月30日現在で29連勝だったのでしょうか。まだまだ、連勝記録がのびそうです。結果にも驚かされますが、試合後の受け答えがとてもしっかりしています。中学生とは思えません。勝った試合で相手のことを言うのではなく、いつも自分の将棋についてきちんと話をしています。勝った負けただけの話でないのです。この藤井さんも「将棋もすごい。」と思います。

「〇〇もすごい。」と言ってもらえるような子どもを小鹿野小学校でも育てていきたいと考えます。そのために特別なことでなく、普段当たり前に行うべき事をしっかりと当たり前に行える、このことを大切に思える子どもになってほしいと思っています。

ご家庭のご協力をよろしくお願いいたします。